

令和8年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立桜木中学校) 学校番号 223

【様式】

学校教育目標	「溢れる英知 輝く笑顔」 ～学習いっぱい 優しさいっぱい 元気いっぱい～
目指す学校像	学ぶ喜びのある学校 生徒の夢をはぐくむ学校 生き生きと活動する学校 保護者・地域とともに活動し信頼される学校
重点目標	1 生徒・保護者の期待に応える質の高い教育活動を展開し、生徒の学力と体力の向上に努める 2 生徒が安心して学ぶことのできる誰一人取り残さない教育の実現に努める 3 保護者・地域とともに活動し信頼される学校づくりに努める 4 生徒の学習意欲を喚起し、美しい心を育てる教育環境の整備に努める 5 質の高い教育活動を支える教職員の資質能力向上に努める

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価システムシート							学校運営協議会による評価		
年度目標			年度評価				実施日令和8年2月12日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、数学ともに全国、市平均と比べ良好な結果である。 ○全国学力・学習状況調査において、「学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、県平均を大きく上回った。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語、数学と2極化の傾向にあり、個々の生徒の理解の程度にあわせた「個別最適な学び」のさらなる充実が必要である。また、「協働的な学び」も充実させることで「自立した学習者」とすることが必要である。 ○教科横断的な視点に立ち、探究的な学びの実現を図るカリキュラム・マネジメントを推進する必要がある。	・個々の教育データを活用した、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 ・教科横断的な視点に立ち、探究的な学びの実現を図るカリキュラム・マネジメントの実施	①全国学力・市学習状況調査・定期テスト等の結果を用いて、振り返りの時間や学習改善サイクルを設定する。 ①カリマネデザインマップの作成と活用を実施する。 ②カリマネデザインマップを踏まえた、各教科の年間指導計画の見直しを行う。 ③学校評価によるカリキュラム・マネジメントの評価と改善に取り組む	①学びの指標の「主体的な学び」評価項目を令和7年度比+0.05p向上させることができたか。(R7:3.555→R8:3.60) ①学期ごとにカリマネデザインマップの進捗の確認と見直しを実施することができたか。 ②3月中旬までに、年間指導計画の見直しと、次年度の年間指導計画の作成を行うことができたか。 ③教職員アンケートで「カリキュラム・マネジメントは適切に実施された」の肯定的な回答の割合を80%以上となったか。					
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において、「自分には、よいところがあると思いますか」「友達関係に満足していますか」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、県平均を大きく上回った。 (課題) ○生徒一人ひとりの状況把握と初動対応の質を高めるための、教育データの活用と組織的支援体制の強化 ○家庭環境の多様化に対応し、学校と家庭が連携して生徒を支えるための情報共有と相談体制の充実	・いじめや不登校に係る事案の未然防止・早期発見・早期支援・再発防止を実現するための、組織的な支援体制の構築 ・生徒の声を丁寧に把握し、不安や悩みの早期発見・予防・初期対応を日常的に徹底する相談体制の充実	①「心と生活のアンケート」やスクールダッシュボード等の教育データを活用し、生徒の心理・行動の変化を継続的に把握する。 ②情報端末を活用して、保護者アンケートや三者面談記録を蓄積し、家庭での生徒の状況を継続的に把握できる仕組みを整える。 ①教育相談週間の設定と、日常の相談活動の充実を図り、生徒が相談しやすい環境を整える。 ②教職員の連携を強化し、組織的な教育相談を推進する。	①学校評価アンケート(生徒)において「友だちに思いやりをもって接している。人を傷つける言葉は使っていない(いじめ、差別)」のA回答が71%以上となったか(R7:71%→R8:71%以上) ②学校評価アンケート(保護者)において、「学校は子どものことについて連絡・報告・相談したことを適切に対応してくれる」のA回答が55%以上となったか。(R7:55%→R8:55%以上) ①生徒アンケートで「先生方は私たち一人一人を大切にしている」と回答する生徒の割合が95%以上となったか。 ②学校評価(保護者)アンケート「学校や教職員の指導を信頼できる」A回答が、49%以上となったか(R7:49%→R7:54%)					
3	(現状) ○学校運営協議会で、生徒を地域全体で育てていくことを共有し、自治会・育成会・PTA等の支援を得ながら、地域協働活動が実施されている。 ○全国学力・学習状況調査において、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、県平均を大きく上回った。 (課題) ○本校教育活動の質的向上を図るためのPDCAサイクルが機能するように学校運営協議会の運営をはじめ、地域住民等からの意見を積極的に取り入れるとともに、地域の教育資源の活用が課題である。	・学校運営協議会での熟議を通じた教育活動の質的向上と、地域住民、保護者等との信頼関係の深化 ・子どもが主体的に参画する地域学校協働活動の推進	①学校運営協議会にて、地域の教育資源を生かした教育活動について熟議する。 ②地域諸団体と連携し、地域教育資源を活用した教育活動を創出する。 ①教育活動を積極的に公開する。 ②地域団体による生徒の協働活動に関する協力要請への積極的な参加を促す。 ③創立80周年記念事業について、地域とつながる活動案を生徒が作成する。	①地域の教育資源を活用した教育活動の在り方をテーマとした学校運営協議会を、年度内に1回以上実施できたか。 ②地域諸団体と連携した教育活動を年度内に1回以上実施し、生徒の主体的な参画が確認できたか。 ①学校運営協議会委員、保護者、地域に教育活動を公開する場を年5回以上実施できたか。 ②生徒ボランティア延べ人数において令和7年度を上回ることができたか。(R7:231人→R8:231人以上) ③各委員会で取り組み内容を実施できたか。					
4	(現状) ○サポートルーム整備や美化活動が進み、学習環境の改善が図られている。 (課題) ○創立80周年に向け、老朽化設備の改善や動線の最適化など環境整備の一層の推進が必要である。	・安全で最適な教育環境を整備し、学校施設の魅力向上と業務の効率化を行う。	①教室・特別教室の備品整理と不要物の処理を計画的に実施する。 ②創立80周年を見据え、校舎内外の美化活動を計画的に実施する。 ③事務職員と企画委員会が連携し、業務改善の提案を実施する。	①学校評価アンケート(保護者)において「学校はよく整備されていてきれいである。」のA回答の割合が33%以上となったか。(R7:33%→R8:35%)					
5	(現状) ○研究主題『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による、“Well-being”の向上』に基づき、個別最適な学びと協働的な学びの充実に向けた授業改善や研修が進んでいる。 (課題) ○AI活用を含む授業改善や勤務状況の把握など、教職員の専門性向上と働きやすい環境づくりを一層推進する必要がある。	・AI等を活用した授業改善と専門性向上に向けた教職員の指導育成の推進 ・勤務状況の把握と相談体制の充実による、働きやすい職場環境づくりの推進	①研究主題に基づき、授業参観後の個別フィードバックや研修を通して、AI等を活用した授業改善と教職員の専門性向上を進める。 ①時間外勤務の記録・調整の徹底と、面談や相談体制の充実を進め、教職員が働きやすい環境を組織的に整える。	①学校評価アンケート(保護者)において「学校は子どもの学力を高め能力を伸ばしてくれる」のA回答の割合が40%以上となったか(R7:35%→R8:40%) ①時間外勤務の記録・調整や面談・相談体制の運用が継続して行われ、教職員の勤務状況の改善に向けた取組が進んだか。	①				